

電気電子情報通信工学科

OB・OG Message

社会で求められるスキルは、 大学時代に培われる力と同じです

Canon Europe N.V. (オランダ) 勤務

須田 広紀

2008年 博士前期課程 電気電子情報通信工学専攻修了
私立栄東高等学校 (埼玉県) 出身



エンジニアとして活躍したいと思っていた私には、電気電子情報通信工学科は最適な学科でした。必要となる知識を幅広く学べるからです。実際、多くの研究室では、世界の最先端の研究に取り組んでいますので、日本の高い技術力や近未来に起きるであろう現実の一端を垣間見ることができます。

大学時代、印象深かったのは、2年次に受けた数理計画法の授業です。数理計画法とは、数学的な証明をベースに人類の活動のなかで発生する諸問題を解決する学問。つまり理論と実用の懸け橋となる強力なツールです。山村先生が行うこの授業はとてわかりやすく、数学が苦手だった私にもすぐ理解することができました。授業内容があまりにも衝撃的だったので、ゼミの行われている山村研究室を見学に行ってしまったほどです。

その後、3年次から大学院までの4年間、私は山村先生の情報数理工学研究室に所属しました。この研究室では、論理的な思考能力や自分の考えを表現する力を養うことができました。なかでも研究過程で生じる問題に対処する力は相当鍛えられたと思います。また海外の学会で自身の研究を発表することができ、英語を

磨く機会にも恵まれました。特に理工学分野では英語がとても重要になります。最新の学術的な論文のほとんどが英語で書かれているからです。逆に言えば、英語ができれば多くの情報を吸収できるということ。私自身、パソコンや携帯電話の言語を英語に設定して使っていましたし、定期的に英語のテレビ番組を見て、基礎づくりに励みました。

2012年から私はヨーロッパ本社で働いています。もちろん会話はすべて英語。現場はチームで動きますので、文化の違いを考慮したコミュニケーション能力が必要になります。また、医療機器のソフトウェア開発に携わっており、製品には厳密な品質が求められます。そこで必要となるのが論理的な思考と問題解決能力です。実は、現場の業務で求められるスキルは、大学時代に培った力と同じ。大学は、社会で求められるスキルを養う格好の場なのです。現在私は新規製品の開発のため日々奮闘しています。こうした日々が、エンジニアとしての能力を高めるだけでなく、達成感ややりがいにつながっていくのだと思います。